

ハクセル美穂子のポリティカル・テーマ

100年先も

「いわて」が「いわて」であるように、
みんなで創る「いわて」

岩手県議会議員

ハクセル美穂子

いわて県政レポート

2017.9
秋号

Growing Together!
みんなで創る「いわて」

2017 September “ハクセル美穂子” これまでの活動

[写真は5月～8月の訪問先にて]

2017年
6月

2017年
7月

2017年
8月

医療・介護・福祉
特別委員会県内調査

医療・介護・福祉特別委員会の県内調査で、県立二戸病院、同久慈病院を訪問。医療の県境連携の取り組みについて調査しました。

6月定例会

予算議案1件(一般会計補正予算)、条例議案13件、請負契約議案9件を含む合計36議案を審議しました。いわて県民クラブから提案した「女性の活躍を推進するための社会環境の整備と財源確保を求める意見書」、「働き方改革実行計画の実施に伴う中小企業への支援を求める意見書」、「出張美容における衛生水準の確保を求める意見書」を含めた合計8件の意見書が採択されました。

商工文教委員会
県内・東北ブロック
調査

県立種市高校のSOLT(海洋リテラシー研究会)の取組みや年間100万人が来場する八戸ポータルミュージアム「はっち」において市民参画の取組み等について調査しました。

常任委員会

平成30年度県立高校の学級編成について審議がありました。6つの県立高校において、1学級ずつ学級減を実施する案が提示されました。



県北地域の広域医療体制



二戸病院にて
質問をする



最新の介護機器を視察



実習船「種市丸」の甲板にて、
商工文教委員会委員全員で。



種市高校海洋開発科・潜水実習の様子



「はっち」入口で
市民ボランティアガイドさんと



日本最大のからくり時計の前で(はっち内)



在京幸石町友会にて
幸石町出身の皆さんと懇談



幸石町消防演習にて
息子とともにドリル演奏



二戸病院にて東北の病院の現状と課題を聞く

～折り返し地点 2年の実績報告～



- ◎いつまでも心安らかに暮らし続けられる地域を!
- ◎子育てしながら仕事も続けられる環境を!
- ◎郷土を愛し、優しい心を育成する教育を!
- ◎地場産業を育成し、地方創生・復興促進を!

これまでの実績-1 病児保育の広域利用の促進

子育てしながら仕事も続けられる環境の整備の一環である、病児保育事業の広域利用の促進について質問を重ねてきました。現在は、市町村をまたいで病児保育を利用する場合には各種の補助対象に該当しないため、**子育て**家庭の負担が軽減されていません。

そのような中、昨年10月に厚生労働省からFAQで具体的な連携例が提示され、この春4月、岩手県内で初めて矢巾町と紫波町の間で病児保育の協定が締結されました。

病児保育などの保育サービスの広域利用は、都市部に集中しがちな多様な保育サービスや医療資源を都市周辺**地域**でも活用できるようにする有効な方法です。共働きやひとり親家庭のお子様がたとえ病気になったとしても、安心して、仕事と**子育て**を両立できる**地域**づくりのためにさらなる利用促進に努めます。



これまでの実績-2 小児予防接種の広域化

赤ちゃんは、生後2か月を過ぎると最初の予防接種を受け、そのあと4歳前後までたくさんの予防接種を受けなければなりません。子供が増えれば増えるほど予防接種は煩雑になっていき、**子育て**家庭の大きな負担の一つでもあります。

最近では小児科医の都市部一極集中が進み、都市周辺**地域**の小児科医も減少傾向にあります。しかし、住んでいる市町村以外の施設で予防接種を受けようとすると、手続きが1つ増えてしまいます。

都市周辺**地域**で**子育て**家庭が他市町村でも同様の手続きで予防接種が利用しやすい環境の整備は、重要な課題であり、同じ課題にすでに取り組んでいる宮城県の事例をもとに小児予防接種の広域化を訴えてきました。その結果、県は、本年1月に県医師会や市町村等で構成した広域的予防接種体制の充実に向けたワーキンググループを設置し、様々な課題検討等を進め始めました。

今後も、課題解決に向けてさらに推移を見守っていきます。

子育てサービスの充実は、地域への定住促進、ひいては地域振興につながります。

2017秋号コラム COLUMN

ママたちが考える働き方改革、 【ママトーク】開催しました!



去る7月29日(土)、ビッググループ滝沢で【ママトーク:ママたちの働き方改革】と題した公開座談会を行いました。

この公開座談会は、昨今大きな注目を集めている「働き方改革」について、それを最も

必要としている「共働き子育てママ」たちの実際の生活状況と照らし合わせて考えてみることを目的として開催いたしました。

当日は、6市町(滝沢市・盛岡市・矢巾町・紫波町・花巻市・栗石町)から現役子育て中ワーキングママにパネラーとして参加していただき、ママの本音を熱く語っていただきました。

会を進めていくうちに働くママが抱える様々な課題に改めて気づかされました。

まず、共働き子育てママたちには自分の時間がほとんどありませんでした。

ご主人が単身赴任のご家庭は、ママ一人で仕事と育児と家事、すべてこなさなければなりません。1日1時間1分を必死にやり繰りして毎日を過ごしているワンオペ育児ママの実体験から、小さいうちはこどもが病気になる事が多いために、病児保育がなくてはならない保育サービスである事を痛感させられました。

そして、同居する家族の働き方にも職場の理解が絶対に必要なということです。

共働き家庭のご主人の中には、残業をすると夜のお迎えの時間に間に合わないで早朝から出勤して朝に時間外の仕事を(朝なので残



業手当がつかない、謎の時間外業務)、共働きの妻との家事・育児負担のために涙ぐましい努力をされている方もおられました。

自分や夫の勤務先に言いたい

事の中には、「サービス残業が常態化の夫の職場は、そもそも今の仕事の内容や分担を見直すべき」や「自発的に早朝出勤しても残業代がつかないのはなぜなのか?」など、手厳しい意見もありました。また、国や市町村に言いたい事の中には、「県、市役所職員の民間出向や男性職員の積極的な育児休暇取得を推進すべき」や「就活しながらの保育園探しでの行政の対応にうんざりした」など行政サービスをさらに向上してほしいという切実な具体例を交えたご意見が出されました。

働き方改革は、決してママだけの改革で完成するものではありません。子育てに対して明るいイメージが持てるように、家族と職場の理解を深めていかなければなりません。働き方改革は、仕事と家庭の両立を支える重要な政策であり、少子化に歯止めを打つ大きな力となることを期待しています。ぜひ、皆さんも一緒に働き方改革に取り組んでいきましょう。



ハクセル美穂子プロフィール

昭和50年3月8日 栗石町生まれ
 家族 / アメリカ人の夫、4人の息子(小5、小3、小2、年中)
 職業 / 英会話教室経営
 趣味 / 読書、フラワーアレンジメント、散歩、博物館めぐり
 学歴 / 栗石町立御明神小学校 [H62卒]・栗石町立栗石中学校 [H2卒]・盛岡第四高等学校 [H5卒]・岩手大学農学部 [H9卒]
 経歴 / 平成9年 栗石町役場入庁
 平成17年 夫とともにアメリカへ移る
 平成18年 (株) Shady Grove Intl設立 代表取締役就任
 平成27年 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区初当選

ハクセル美穂子オフィシャルFacebook
<https://www.facebook.com/mihokopage/>

